

軟組織における PRF(Platelet Rich Fibrin)応用症例  
—粘膜外科用接着剤使用効果—

O 鳥村 亜矢<sup>1)</sup> 磯辺 和重<sup>1)</sup> 鈴木 泰二<sup>1)</sup> 奥寺 元<sup>1)</sup>  
東京形成歯科研究会<sup>1)</sup>

PRF(Platelet Rich Fibrin) in soft tissue application cases  
-Application of mucosa surgical adhesive used effect over-  
O TORIMURA A<sup>1)</sup> ISOBE K<sup>1)</sup> SUZUKI T<sup>1)</sup> OKUDERA H<sup>1)</sup>  
Tokyo Plastic Dental Society<sup>1)</sup>

I 目的： インプラント治療においては、硬・軟組織の迅速な治癒経過や軟組織の健康な厚みのある角化歯肉は、インプラントの予後にも大きな影響をもたらす。私どもは、歯槽骨及び歯肉形態修正において自己血由来の多血小板血漿（PRP）また多血小板フィブリン（PRF）を持つ特徴を踏まえて、治癒促進や審美を求めた形態再生の効果と歯肉軟組織の審美障害をもたらすメラニン色素沈着でその除去に応用して、粘膜上皮治癒効果を発表した。今回軟組織の処置の治癒促進に的を絞り、粘膜における粘膜外科用接着剤の固定で患者の痛みの緩和治癒促進求めた。その軟組織検査を紹介する。

II 材料および方法： 東京形成倫理委員会承認番号（005）をもとに、患者の同意を受けた症例を対象とした。症例は、抜歯後骨補填材を挿入し上唇小帯切除後 PRF をカバーし、その上に粘膜外科用接着剤（エチル 2-シアノアクリケート）を塗布し PRF の経過を肉眼的観察と 3 か月後の BIOPSY 除去の組織観察を行った。

III 結果： 粘膜外科用接着材で固定されつつ、PRF が速やかに吸収されていくことが継時的に観察され、治癒がほぼ 3 週間の経過であった。また吸収下では新生肉下組織の増殖も観察された。普通切開後においては、食品等の刺激等があるが、今回の使用でまったく痛みを訴えなかった。組織検査においても、組織的に通常の治癒展開の結果で異常はなかった。

IV 考察および結論： 治癒促進と手術後の緩和は臨床医療においては、患者の手術経過の緩和に対して重要な立場である。PRF を粘膜外科用接着剤で固定することにより、違和感を訴える事なく、組織的に異常はなかった。症例内容においてはこのような応用も選択肢の 1 方法で有ることが示唆された。

